

私の昭和の時代 **連載①**  
『田原小学校校歌誕生物語』

青空高く 地は広く  
熊野の森の 朝日影  
少年の意気 天をつき  
若き理想は 高きかな  
われらが学び舎 おお田原校  
われらが学び舎 おお田原校

はるか彼方を 指させば  
市川の流れ 水清く  
水に希望の 影浮かび  
少女の光 輝けり  
われらが学び舎 おお田原校  
われらが学び舎 おお田原校

(3番省略) (2・3番省略)

私たちが誇りをもって歌い続けている校歌は、八反田出身の中村健氏(1926〜2012)「バリ祭の男」によると、「大講堂の落成(昭和11年)と相前後してできた」とのこと。作詞は長谷川善雄<sup>※1</sup>、作曲は山田耕筈<sup>※2</sup>である。中村氏は後に北野出身の詩人「長谷川氏の鞆持ちのような立場になるのだが、その頃はまだ長谷川善雄が何者であるか知らなかった。(中略)後日、長谷川氏と親しくなった折、氏にこういう

ことを聞いてみた、『先生は村出身であるから校歌の作詞をされたのは理解できる。しかし、大作曲家、山田耕筈が田原のような片田舎の小学校歌を作曲するといふのは、どういう縁故だったのでしょうか。』長谷川氏の答えはこうであった。『(田原)村の人に頼まれて作詞はしたが、作曲しなければ校歌にならない。しかし、村の人に作曲家との付き合いがあるとは思えなかった。自分で然るべき作曲家を探さねばならなかった。幸い、新劇の細川おちかが山田耕筈と親しかったので、おちかに頼んでもらって、出来たのがあの校歌である』。長谷川氏は大女優、細川ちか子<sup>※3</sup>のことを「おちか」と呼んでいた。

校歌が誕生した頃に、辻川出身の松岡源之助氏の高額寄付によって建った赤い屋根の講堂は、田原尋常高等小学校校舎の北側(現幼児園地)にあった(写真)。講堂は昭和59年に焼失したが、源之助氏の胸像は火災を免れ今は小学校西玄関にある。

校歌はその後、昭和17年に建った田原国民学校に、そして同22年からの田原小学校に歌い継がれている。

※1 (1898〜1955) 北野長谷川家本家(歴代の庄屋)の出自。フランス文学者、演劇研究者。戦後の田原村公民館長も。  
※2 (1886〜1965) 作曲家・指揮者。1956年文化勲章受章。代表作に『赤とんぼ』『花』など。校歌作曲も多く、兵庫県下では小学校3校(近くは龍野小作詞三木露風)、中学1校、高校4校(近くは姫路西高友にあとう)作詞阿部知二など。2020年度前期のNHK朝ドラ『エール』で志村けん演じる小山田耕三のモデル。  
※3 (1905〜1976) 女優。戦前1934年には新協劇団の結成に参加。戦後は劇団民藝の中心女優として活躍し日活・大映映画にも出演。  
「参考・引用文献」  
『バリ祭の男』中村健(1990頃)  
『長谷川善雄歴観』松岡秀隆(2008)  
『学びの郷』田原小学校一〇〇周年記念誌(2007)



新講堂輝く昭和12年(校歌が出来た頃)の田原尋常高等小学校

